大豆フラボノイド合成系酵素遺伝子発現を調節する cGMP/NOシグナル伝達機構の解析

吹田憲治・小原達也・矢野俊介・豊島美咲・山形裕士*

神戸大学大学院農学研究科

Mechanisms of cGMP/NO Signal Transduction Controlling Gene Expression of Soybean Flavonoid-Biosynthetic Enzymes

Kenji SUITA, Tatsuya OHARA, Shunsuke YANO, Misaki TOYOSHIMA and Hiroshi YAMAGATA $^{\rm 2}$

Graduate School of Agricultural Science, Kobe University, Kobe 657-8501

ABSTRACT

Several genes encoding flavonoid-biosynthetic enzymes in soybean (Glycine max L.) were induced by cyclic guanosine 3', 5'-monophosphate (cGMP) and nitric oxide (NO), indicating that cGMP and NO act as second messengers to activate the expression of these genes. Loss- and gain-of-function experiments showed that the upper region in the promoter of chalcone reductase gene (CHR) was responsible for the gene induction by cGMP. DNA microarray analysis using the Arabidopsis T87 suspension culture showed that the expression of many genes was enhanced or repressed by cGMP and/or NO. These results indicated that cGMP and NO functionally linked with each other for the regulation of many genes in plants. On the other hand, the different mechanisms for transcriptional regulation between plant species was suggested based on the observation that the expression of most flavonoid biosynthetic genes was not altered by cGMP/NO in Arabidopsis in contrast to soybean. Arabidopsis nicotianamine synthase 1 (AtNASI), a key enzyme for response to iron deficiency, was activated by cGMP and NO. The upstream region in AtNASI responsible for the induction by cGMP was found to be separated from the NO-responsive sequence, suggesting that the cGMP- and NOmediated signaling pathways for the induction of AtNAS1 are likely to be different from each other. Soy Protein Research, Japan 13, 55-61, 2010.

Key words : flavonoid, gene expression, cGMP, nitric oxide, signal transduction

^{*〒657-8501} 神戸市灘区六甲台町1-1

我々は、植物細胞中の光シグナル伝達機構を薬理 学的手法により解析する過程で、サイクリックGMP (cGMP) がカルコン合成酵素 (chs) などのアントシ アニン合成系酵素遺伝子の発現を誘導することを報告 した^{1~5}. また、最近、大豆のアントシアニン、フィ トレキシン、イソフラボンなどフラボノイド類の多 くの合成系酵素遺伝子の発現がcGMPや一酸化窒素 (NO) により誘導されることを報告した⁶. 動物では、 視覚や血管平滑筋弛緩などの重要な生理応答において cGMPとNOが密接に連動して機能していることが知 られている. すなわち. 動物におけるNOの主要な作 用点はcGMP合成酵素(グアニル酸シクラーゼ,GC) の活性化であり、NOのヘムへの結合により活性型と なったGCがcGMP合成を促進し、産生したcGMPが標 的となるcGMP依存性プロテインキナーゼ (PKG) な どの酵素の活性やcGMP依存性イオンチャネルの開閉 を調節することにより様々な生理作用を表す^{7~8)}.近 年、植物においてもNOが感染防御応答、アブシジン 酸に誘導される気孔の閉口、鉄過剰ストレスに対する 応答、オーキシンにより調節される側根形成や根の 重力屈性等に関与することが報告されている⁹. また, cGMP/NOがPALやPR-1などの防御応答性遺伝子の 発現を調節していることが報告されている⁹. しかし. NOやcGMPによる遺伝子発現調節の分子機構とシグ ナル伝達機構は未解明である.また、遺伝子発現調節 におけるNOとcGMPの機能的相関も不明であり、動 物細胞の可溶性GCのような、NOによって活性化され るタイプのGCも未だ同定されていない. cGMP/NOシ グナル伝達機構が解明されれば、その機構を改変する ことによりイソフラボンやアントシアニンなどのフラ ボノイド類を多く含む大豆の開発も可能となると考え られる.

本研究では、cGMPとNOによる植物遺伝子発現調 節機構の解明を目的として、大豆カルコン還元酵素遺 伝子のcGMPによる発現誘導機構を解析した.また、 シロイヌナズナのDNAマイクロアレイ分析により、 cGMP/NOによって発現調節される遺伝子を網羅的に 調べた.その中の一つ、ニコチアナミン合成酵素遺伝 子(*AtNASI*)のプロモーター中のcGMP/NO応答性 シスエレメントを解析した.

実験材料

大豆(*Glycine max* cv. Corsoy)の光独立栄養培養 細胞(SB-P細胞)を既報^{1,2,4}に従い、連続照射光下、

法

方

5 g/Lのショ糖を含むKN1 medium中で懸濁培養した (25℃). 3日間の暗所適応後, 50 μ Mの8-Br-cGMPま たは100 μ MのSNP (sodium nitroprusside, NO発生剤) で一定時間処理した. すべての処理は緑色安全光下 で行った. シロイヌナズナ (*Arabidopsis thaliana* cv. Columbia) 由来のT-87細胞は理化学研究所より分譲を 受けた. 懸濁培養にはショ糖を除いたオートクレーブ 滅菌済みのJPL培地を用いた. 細胞の薬剤処理, ノー ザン分析は既報^{1~3}に従い行った. NOドナーとして SNP (sodium nitroprusside), またはDEANONOate (2-(*N*, *N*-dimethylamino)-diazenolate-2-oxide・Na) を, SNPのコントロールとしてフェロシアン化ナトリウム を用いた.

一過的遺伝子発現系によるプロモーター解析

大豆*CHR*のプロモーターをインバースPCRで単離し た. プロモーター -*GUS*融合遺伝子は既報^{1~3}に従い調 製した. パーティクルガンを用いプロモーター -*GUS* 融合遺伝子をSB-P細胞に導入した. 導入後細胞を暗 所下8-Br-cGMPまたは8-Br-cAMPで処理し25℃で10時 間静置後,細胞抽出液中のGUS活性を測定した. 同時 に内部標準として導入したpBIΩFF[®]によるルシフェ ラーゼ (LUC)活性で除し標準化した. シロイヌナズ ナT-87細胞のプロトプラストをAsaiらの方法¹¹⁰に従い 単離した. プロトプラストへの遺伝子の導入はポリエ チレングリコール (PEG4000)を用いて行った. 導入 後,暗所, 23℃で16時間静置し,GUS活性とLUC活性 を測定した.

DNAマイクロアレイ分析

暗所適応したT87細胞に50 μ M 8-Br-cGMP, 50 μ M 8-Br-cAMP, あるいは100 μ M SNPを添加してさら に3時間暗所下で培養後,総RNAを抽出し,DNA マイクロアレイ分析に供した.マイクロアレイチッ プ,蛍光ラベリングキットはそれぞれTaKaRa社製の TaKaRa DNAチップ(Custom Arabidopsis CHIP: ARI3,約25,000遺伝子を搭載),RNA Transcript Sure LABELTM Core Kitを用いた.サンプルのCy5蛍 光強度,コントロールのCy3蛍光強度の対数値(log₂) をとり,散布図を作製した.

結果と考察

大豆*CHR*プロモーター中のcGMP/NO応答性シスエレ メントの解析

これまでに,薬剤処理した大豆SB-P細胞のノーザン 分析によりFig.1に示したアントシアニジン合成酵素 を除く多くの大豆フラボノイド合成酵素の遺伝子の発 現がcGMPとNOにより誘導されることを報告した⁶. このことはcGMPやNOが大豆フラボノイド合成系酵 素遺伝子の発現を調節するセカンドメッセンジャーと して機能していることを示唆している.また,NOの 効果はGC阻害剤により消失することから,cGMPと NOが機能的に連関して大豆フラボノイド合成系酵素 遺伝子の発現を誘導していることが示唆された⁶.

cGMP/NOにより発現が誘導されるカルコン合成酵素遺伝子(CHS)やカルコン還元酵素遺伝子(CHR)については、それらのプロモーターがcGMP応答能をもつことを大豆SB-P細胞への一過的遺伝子発現解析により示した(Fig. 2a).これらのプロモーターは cAMPには応答しなかった.cGMPとNOが同じシグナル伝達経路の因子としてこれらの遺伝子の発現を調節するのであれば、プロモーター中のcGMPとNO応答



Fig. 1. The flavonoid-biosynthetic pathway in soybean. PAL: Phenylalanine ammonialyase, C4H: Cinnamate 4-hydroxylase, 4CL: 4-Coumarate:CoA ligase, CHS: Chalcone synthase, CHR: Chalcone reductase, CHI: Chalcone isomerase, IFS: 2-Hydroxyisoflavanone synthase, HIDH: 2-Hydroxyisoflavanone dehydratase, IFGT: UDP-glucose:isoflavone 7-O-glucosyltransferase, ANS: Anthocyanidin synthase, IFR: Isoflavone reductase.



Fig. 2. Analyses of cGMP responsiveness of several promoters of cGMP-induced genes. a. The promoters of CHS, CHR, and CAB7 were fused with the β -glucuronidase gene (GUS), and these constructs were introduced into darkadapted SB-P cells. After bombardment, the cells were incubated with $50 \,\mu M$ 8-Br-cGMP or 8-Br-cAMP in the dark for 10 h, and GUS activities in the cell extract were measured. All GUS values were normalized to LUC values, and the average of pBI221 was taken to be 100. Black bar, control cells without chemical treatment; white bar, 8-Br-cGMP treated cells; grav bar, 8-Br-cAMP treated cells. b. 5'-deletion and gain-of-function analyses of the CHR promoter. The 5'-deletion constructs containing various lengths of the CHR promoter fused to the promoterless pSKGUS3C plasmid were introduced into dark-adapted SB-P cells. The numbers refer to the 5'- and 3'-ends of the CHR upstream fragments with respect to the transcriptional start site. For the gain-offunction analysis, the -600 to -186 region of the CHR promoter was fused upstream of the CaMV 35S minimal promoter (-46 to + 8), and the chimeric promoter was linked to the GUS reporter gene. Data represent the mean (\pm S.E.) of six independently bombarded samples. NOS, nopaline synthase terminator; 3C, Rubisco 3C (small subunit of ribulose 1.5-bisphosphate carboxylase/oxygenase 3C) terminator.



Fig. 3. Gene expressions were altered by NO and cGMP but not by cAMP in *Arabidopsis thaliana*. Darkadapted T87 cells were incubated with either $100 \,\mu$ M SNP, $50 \,\mu$ M 8-Br-cGMP, or $50 \,\mu$ M 8-Br-cAMP for 3 h in the dark. As control for SNP or 8-Br-cGMP/8-Br-cAMP treatment, dark-adapted T87 cells were treated by distilled water or 10% DMSO, respectively. Total RNA extracted from each sample was reverse transcribed to synthesize fluorescent-labeled cDNA with Cy3-dCTP (chemical-treated sample) or Cy5-dCTP (control), and the labeled cDNA was hybridized with around 25,000 *Arabidopsis* genes spotted on a glass plate. The analysis of array data was carried out by using ImaGene- and GeneSpring-software. The vertical and horizontal axes represent the normal logarithm of signal-intense value of chemicaltreated and control sample, respectively.

性シスエレメントが同一であることが推測される. ま ず、CHRプロモーター中のcGMP応答性配列を探るた めに、プロモーターを5 末端側から種々の長さに削り 込んでGUSレポーター遺伝子に連結した融合遺伝子 の発現を調べるloss-of-function型実験と特定の配列を GUSの上流に連結するgain-of-function型実験を組み合 わせ、プロモーター中の転写開始点より上流。-600 ~-186塩基の領域にcGMP応答性シスエレメントが 存在することを示した (Fig. 2b). しかし, 無処理の 対照細胞においても機械的ストレスによると推定され る一定のGUS発現が観察されたことから、パーティク ルガンを用いる一過的発現解析法ではこれ以上詳細な 解析は困難であった. そこで、より穏和な方法として、 プロトプラストヘポリエチレングリコールを用いて潰 伝子を導入し発現を解析する系を新たに確立し、この 系を用いたcGMPおよびNO応答性シスエレメントの 解析を進めている.

cGMPやNOによって発現が調節される遺伝子の網羅 的解析

上記のように大豆のフラボノイド合成系酵素遺伝 子をはじめ、いくつかの植物遺伝子の発現がcGMPや NOにより調節されていることが知られているが、そ の分子機構は不明である。それらの転写調節機構や cGMP/NOのシグナル伝達機構の解明には、ゲノムの



Fig. 4. NO- and cGMP-responsive genes in Arabidopsis thaliana. Based on the microarray data, 170 of up-regulated (<2-fold) and 385 (>1/2-fold) of down-regulated genes by NO/ cGMP were identified, respectively.

全塩基配列が決定され,形質転換株や変異株などを用いる遺伝学的解析の容易なシロイヌナズナを研究材料 とするのが有利と考えられる.そこでまず,cGMPや NOによって発現調節されるシロイヌナズナ遺伝子を DNAマイクロアレイ分析により網羅的に解析した.

暗所適応したT87細胞に50 μ M 8-Br-cGMP, 50 μ M 8-Br-cAMP, あるいは100 μ M SNPを添加してさらに 3時間暗所下で培養後,総RNAを抽出し,DNAマイ クロアレイ分析(約25,000遺伝子)に供した.その結 果, cGMPやNOにより発現が調節される遺伝子が多 数検出されたが, cAMPで調節される遺伝子はわずか であった(Fig. 3).さらに, cGMPとNO両者によっ て発現が誘導された遺伝子は170個,抑制された遺伝 子は385個であった(Fig. 4). cGMPやNOにより発現 が誘導された遺伝子の中には,オーキシンにより誘導 される細胞伸長や病原菌の感染に対する防御応答に関



Fig. 5. Analyses of gene expressions of AtNAS1and AtFER1 in response to NO and cGMP treatments. Dark-adapted T87 cells were incubated with 100 μ M SNP, 100 μ M sodium ferrocyanide, 100 μ M DEANONOate or 50 μ M 8-Br-cGMP for 3 h under dark conditions and transcript levels were analyzed by Northern-blot analysis of total RNA. Equal amounts of RNA (20 μ g/lane) were verified by rehybridizing the blots with a ³²P-labeled cDNA fragment of soybean 18S rRNA. 与することが知られているエクスパンシン,ペクチン エステラーゼ,ポリガラクチュロナーゼなどの細胞壁 関連たん白質の遺伝子が含まれていた.しかし,大豆 で報告されたフラボノイド合成系酵素遺伝子群やタバ コで報告されたPR-1遺伝子などは、シロイヌナズナで はcGMP/NOにより顕著な発現調節を受けていなかっ た.この結果,植物種によりcGMP/NOによって調節 される遺伝子群が異なることが示唆された.

AtNAS1遺伝子のcGMP/NO応答性配列の解析

DNAマイクロアレイ分析によりcGMPとNOの両者 により転写産物量が増加したいくつかの遺伝子につい て、定量的PCRおよびノーザン分析により、それらの 遺伝子発現のcGMP/NO応答性を確認した. それらの 中から,鉄の吸収に関与し,鉄により遺伝子発現が調 節されることが知られている¹²⁾ニコチアナミン合成酵 素遺伝子(AtNAS1)とフェリチン遺伝子(AtFER1) について解析を進めた. Fig. 5はこれらの遺伝子の発 現がcGMP/NOにより顕著に誘導されることを示した ノーザン分析の結果である。NO発生剤であるSNPと DEANONOateおよびcGMPにより顕著に発現が誘導 された. SNPはフェロシアナイド化合物であるが対照 として用いたフェロシアン化ナトリウムはこれらの遺 伝子発現を誘導しなかったので、SNPの効果は発生し たNOによるものと考えられた. MurgiaらもAtFER1 の発現がNOにより誘導されることを報告している¹³⁾. T-87細胞のプロトプラストを用いる一過的遺伝子発



Fig. 6. Nucleotide sequence of the 5' part of the AtNAS1 gene. AtNAS1 upstream region containing the promoter and short stretch of transcribed region is shown. The cGMP-responsible region and NOresponsible sequence determined 5'-deletion analysis of the AtNAS1 promoter are underlined. The sequence of the first 10 amino acids from the NH₂ terminus is also shown. 現系により、*AtNAS1*のcGMP/NO応答性シスエレメ ントを解析した. Fig. 2と同様のloss-of-function型実験 とgain-of-function型実験を組み合わせ, Fig. 6に示し たようにcGMP応答性配列とNO応答性配列が異なる ことが明らかになった. この結果, *AtNAS1*の発現を 調節するcGMPとNOのシグナル伝達経路が異なるこ とが示唆された.

以上の結果は、cGMPとNOの両者により発現が誘 導される遺伝子において、cGMPとNOが必ずしも同 じシグナル伝達経路を構成する分子として連関して機 能していない場合があることを示している.

要 約

多くの大豆フラボノイド合成系酵素遺伝子の発現はcGMPとNOにより誘導される.これらフラボ ノイド合成系酵素遺伝子のうち,大豆カルコン還元酵素遺伝子プロモーター中の上流配列のcGMP 応答能を示した.cGMPやNOによって発現が調節されるシロイヌナズナ遺伝子をDNAマイクロア レイ分析により網羅的に解析し,多くの遺伝子がcGMPやNOにより誘導または抑制されることを明 らかにした.cAMPはほとんど遺伝子発現調節には関与していないことが示唆された.フラボノイ ド合成系酵素遺伝子の発現調節機構は大豆とシロイヌナズナで異なることが示唆された.AtNASI とAtFERIはcGMPとNOにより発現が誘導された.AtNASIのプロモーター解析の結果,cGMPと NO応答性配列は互いに異なることが示唆された.以上の結果,植物遺伝子の発現調節においてNO とcGMPは動物で知られているように機能的にリンクせずに,別々のシグナル伝達経路で機能する 場合があることが示唆された.

- 文
- Bowler C, Neuhaus G, Yamagata H and Chua NH (1994): Cyclic GMP and calcium mediate phytochrome phototransduction. *Cell*, **77**, 73-81.
- Bowler C, Yamagata H, Neuhaus G and Chua NH (1994): Phytochrome signal transduction pathways are regulated by reciprocal control mechanisms. *Genes Dev*, 8, 2188-2202.
- Neuhaus G, Bowler C, Hiratsuka K, Yamagata H, and Chua NH (1997): Phytochrome-regulated repression of gene expression requires calcium and cGMP. *EMBO J*, 16, 2554-2564.
- Yamagata H, Saka K, Tanaka T and Aizono Y (2001): Light activates a 46-kDa MAP kinase-like protein kinase in soybean cell culture. *FEBS Lett*, 494, 24-29.
- Frohnmeyer H, Bowler C, Xhu JK, Yamagata H, Schafer E and Chua NH (1998): Different roles for calcium and calmodulin in phytochrome- and UVregulated expression of chalcone synthase. *Plant J*, 13, 763-772.
- 6) Suita K, Kiryu T, Sawada M, Mitsui M, Nakagawa, M, Kanamaru K and Yamagata H (2009): Cyclic GMP acts as a common regulator for the transcriptional activation of the flavonoid

献

biosynthetic pathway in soybean. *Planta*, **229**, 403-413.

- Hanafy KA, Krumenacker JS, and Murad F (2001): NO, nitrotyrosine, and cyclic GMP in signal transduction. *Med. Sci. Monit.* 7, 801-819.
- Russwurm M and Koesling D (2004): NO activation of guanylyl cyclase. *EMBO J.* 23, 4443-4450.
- Lamattina L, Garcia-Mata C, Graziano M and Pagnussat G (2003): Nitric oxide: The versatility of an extensive signal molecule. *Annu. Rev. Plant Biol.* 54, 109-136.
- 10) Wendehenne D, Courtois C, Besson A, Gravot A, Buchwalter A, Pugin A, and Lamotte O (2007): NO-based signaling in plants. In: Lamattina L, Polacco JC (eds) Nitric oxide in plant growth, development and stress physiology. *Springer*, *Berlin Heidelberg New York*, pp 35-51.
- Asai T, Tena G, Plotnikova J, Willmann MR, Chiu W, Gomez-GL, Boller T, Ausubel FM and Sheen J (2002): MAP kinase signaling cascade in Arabidopsis innate immunity. *Nature* 415, 977-983.
- 12) Mori, S (1999): Iron acquisition by plants. Curr.

Opin. Plant Biol., 2. 250-253.

 Murgia I, Delledonne M, and Soave C (2002): Nitric oxide mediates iron-induced ferritin accumulation in *Arabidopsis*. *Plant J*. **30**, 521-528.